

立川短大 石毛フミ子
 浮須 婦紗
 昭和女大 ○鈴木キミ子

1. 小・中学生の体位は、最近いちじるしく向上したように思われるので、被服製作指導上の参考寸法をうるため、身体の計測を行なった。

2. 計測期は昭和41年7月～9月で、都内世田谷区奥沢小学校・東玉川小学校・奥沢中学校の児童・生徒（7～15歳）900名につき男子24・女子25部位についてマルチン法により実測し、昭和29年、同区・同対象年齢742名の調査結果（こどもの発育状況追跡調査）ならびに41年度全国値と比較した。

3. 全国値ならびに本計測結果と、昭和29年調査値を比較すると年齢・性別に関係なく各部位で一様に増加している。また本計測値は、全国値よりやや上回っている部位が多くみられる。身長を、15歳女子についてみると本計測値が、昭和29年調査値より平均約2cm増加しており、胸囲は同条件で平均約0.6cm増加している。長径・周径ともに大体増加しているが、長径部位の増加が目立つ。

本調査は都市の一部の計測値で都会の同年齢を代表するとはいえないが、一応のめやすと考え、年齢別増加曲線から、服の幅・ゆき・たけにおける縫いしろ・縫製の問題を検討する資料としたい。